

単元名 生きもの 大すき

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 生き物の世話をすることの楽しさや喜びに気付くとともに、生き物が自分たちと同じように生命をもっていることに気付くことができる。
- (2) 生き物と触れ合いながら、生き物が喜んでくれるような世話の方法を考えたり、生き物について気付いたり感じたりしたことを表現することができる。
- (3) 生き物に親しみをもち、意欲的に生き物に触れたり世話をしたりして大切にしようとする。

標準的な展開例

01060202_001

【準備等】記録カード、飼育ケース、えさ、生き物の図鑑、タブレット端末 等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 動物にじかに触れたり、えさをやったりしながら動物と関わる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでに動物と触れ合ったり育てたりした経験を伝え合い、学習の見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園でモルモットを飼っていました。 ・ 家で犬を飼っています。ぼくが家に帰るとしっぽを振って迎えに来てくれるのでかわいいです。 ★ 動物と触れ合おう ○ 動物にじかに触れたり、餌をやったりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ どうやって抱っこしたらいいのかな。 ・ おなかを触ったよ。温かいね。 ○ 気付いたことを記録カードにかく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ キャベツをあげたらおいしそうに食べていました。 ・ 毛がふわふわです。なでると気持ちよさそうです。 ○ 気付いたことを伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ もっと触りたいな。 ・ これからもっと仲良くなりたいです。 <p>3～4 動物に触れて温かい感触を体感したり、世話をしたりする。（常時活動を含む）</p> <p>★ 動物と仲良くなろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 仲良くなる方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 動物の喜びそうなことを調べたらよいと思います。 ・ 毎日観察やお世話をするとよいと思います。どんなお世話ができるかな。 ・ 名前で呼んだり、なでたりすると仲良くなれると思います。 ○ さまざまな調べ方を知り、動物との関わり方や世話の仕方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本で調べる。（教科書や図鑑、タブレット端末） ・ 上級生や家の人に聞く。 ・ 動物園の飼育員や獣医に聞く。 ○ 動物にじかに触れたり、動物の世話をしたりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 心臓の音がドクドク聞こえるよ。 ・ おなかに手を添えて抱っこするんだね。 ・ 嫌がったら静かに下ろしてあげよう。 ・ 逃げちゃうよ。どうしたんだろう。 ○ 気付いたことを記録カードにかく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ わたしはふわふわの毛が好きです。 ・ 糞は小さくて、みんな同じ大きさでした。 ・ 小さな手をしていて、爪もありました。 ・ 抱っこしようと思ったら逃げてしまいました。抱っこしなかったけど、うさぎの気持ちを考えてやめました。静かにしてほしかったのかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動物園に行ったり、移動動物園を招いたりするなど世話をせずに動物と出会うのみの学習にしてもよい。その際、温かい動物に触れるような学習を計画する。学習内容については学校の実態に合わせて変更する。 ・ 教科書P. 70～71を見せ、これまで動物と触れ合った経験や世話をしてきた経験を発表させる。 ・ 動物と仲良くなれた経験を児童から引き出しめあてを提示し、単元の見通しをもたせる。 ・ 生き物に触る前と触った後には手を洗うことを指導する。以降も同様に指導する。 ・ 教科書P. 73「なかよくなるひみつ」を見せ、動物との接し方を学ばせる。 ・ 動物を抱き、体温を感じることで動物にも生命があり、尊いものであることをより実感させる。 ・ 教科書P. 73を参考にしてもよい。動物の様子や気付いたことが絵や文でかけるとよい。 ・ 本時の感想や気付いたことを伝え合わせ、動物への関心を高め、動物と友達になってみたいという意見を引き出したり、どうやったら仲良くなれるかを問いかけたりして次時の活動につなげる。 <p>【評】 触れ合いや記録カードを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動物をゲージなどに入れたり休み時間に飼育小屋に行ったりするなど、いつでも観察したり触れ合ったりできる環境を整えておく。 ・ 前時の学習を想起させ、動物と仲良くなりたい気持ちを確認し、本時のめあてにつなげる。 ・ 正しい世話の方法を知る必要性を感じさせ、調べ学習につなげる。 ・ 教科書P. 76～77「もっとやってみたいな」を見て、世話の仕方を考えさせる。 ・ 地域と連携し、飼育員や獣医などを外部講師として招けるとよい。 ・ 前時よりも長い時間を取り、一人一人が触れ合えるような十分な時間をとる。 ・ 聴診器があれば心臓の音を聞かせ、自分と同じように生きていることを実感させる。 ・ えさをあげたり飼育小屋の掃除をしたりする。 ・ 動物との関わりが上手くいかないときは、相手の立場に立って考え、相手を理解する大切な機会として捉えるよう児童に伝える。 ・ 観察して気付いたことだけでなく、動物の好きなところや世話をした感想、動物に対する思いや願いも書くよう指導する。 ・ タブレット端末を使って記録させてもよい。 <p>【評】 動物の世話や記録カードを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。</p>

5～6 飼育活動を振り返り、心に残ったことを発表する。

★思い出発表会をしよう

- 記録カードを読み返し、動物と触れ合ったことを振り返る。
 - ・ずっと友達でいたいと思いました。
 - ・〇〇さんが持っていた葉っぱをおいしそうに食べていました。
 - ・〇〇さんが膝の上に乘せてなでると、とても落ち着いて見えます。
- 様々な発表の方法を知る。
 - ・誰に何を伝えるのかを決める。
 - ・話す順序を決める。
 - ・発表の練習をする。
 - ・大きな声ではっきりと話す。
- グループごとで発表の仕方を考えて、練習する。
 - ・お世話クイズを出そうかな。
 - ・仲良くなれて嬉しかったことを発表しよう。
 - ・うさぎの跳び方や寝方を劇にしてみよう。
 - ・チーム名を考えたり、看板を作ったりしてもいいね。
- 学級でミニ発表会を開く。
- 感想を伝え合う。

・自分自身の気付きだけでなく、動物と関わる友達を見た気付きも考えさせ、友達同士の交流や気付いてもらった喜びを味わわせることをねらう。

- ・4～5人のグループで発表させる。
- ・教科書P.134「まなびかたずかん」を見て、ペープサートや紙芝居、劇やクイズなど様々な表現活動があることを知り、実態に合わせて取り入れる。
- ・紙コップなどの身近な物を使って工作させてもよい。
- ・動物に触れ合った喜びが伝えられる内容や動物について気付いたり感じたりしたことを発表させる。

【評】表現活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【評】単元を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

・「温かい動物と触れ合い、命に対する感性を醸成する」ことを主眼に置き、第一学年の時期に扱いたい単元である。しかし、学校の状況によっては、この活動が難しいため「動物でも虫でもどちらでもよい」ことにしている。

・「温かい動物の扱い」の例

- ①動物園や学校飼育小屋で動物と関わる時間を設ける活動。
- ②学校飼育小屋から一時的に教室に持ち込み、一定期間飼育する活動。
- ③外部団体からの協力を得ながら動物や獣医と関わる時間を設ける活動。

＜外部団体＞愛知県獣医師会、日本獣医師会、学校飼育動物関連事業、NPO法人アスクネット、地域の獣医など

・「温かい動物」の代わりに虫のみでこの単元を扱う場合、「虫 大すき」の学習の時間を増やすか、別の単元に充ててもよい。

- ・児童のアレルギーについては事前に保護者に尋ねるなどして十分な対応を考えておく必要がある。
- ・二次元コードを読み込み、動物との触れ合い方や飼育の仕方を確認するとよい。